

2-2. 伊能忠敬（ちゅうけいさん）に見る歴史的風致

（1）はじめに

香取市を代表する人物といえば、日本で初めて実測による日本地図を作製した伊能忠敬^{いのうただたか}（1745～1818）であるが、その伊能忠敬は小野川沿いの旧家である伊能三郎右衛門家^{おのがわ}の出身である。その事績に係る資料2,345点は国宝の指定をうけている。

伊能忠敬は、地元政治家の尽力もあって明治16年（1883）には正四位を追贈されるなど、明治期にその顕彰が行われ、国家的偉人として忠敬が扱われるようになった。その後、地元佐原では大正8年（1919）に佐原公園に伊能忠敬銅像が建立された。これは大正6年（1917）に伊能忠敬没後100年の記念法要の際にその気運が盛り上がり、その後、伊能忠敬の顕彰を兼ねた没後記念事業も10年ごとに定期的に行われるようになった。



伊能忠敬 肖像画

現在でも、地域住民の尊敬を集める人物で、親しみをこめて「ちゅうけいさん」「ちゅうけい先生」などとも呼ばれている。地元の佐原小学校では毎年6月11日には「忠敬祭」と称して、伊能忠敬を知るための行事が長く続けられている。また、伊能忠敬像周辺の清掃なども行われてきた。

平成30年度には、有志の寄付による新たな伊能忠敬像の建立や、伊能忠敬没後200年の記念事業が開催されるなど、今なお伊能忠敬を顕彰する活動が行われている。

年代	西暦	事項	忠敬年齢
延享2年	1745	山辺郡小関村（現九十九里町小関）に生まれる。幼名三治郎	0歳
宝暦元年	1751	母が亡くなり、父貞恒は兄・姉を連れて実家に帰る	6歳
宝暦5年	1755	父のもと（神保家、現在の横芝光町小堤）に戻る	10歳
宝暦12年	1762	佐原村伊能家の婿養子となり、ミチと結婚。名前を忠敬とする	17歳
天明元年	1781	佐原村本宿組名主となる	36歳
天明4年	1784	本宿組名主をやめ、村方後見となる	39歳
寛政3年	1791	家訓書を書く	46歳
寛政6年	1794	家督を長男景敬に譲り隠居、勘解由と名乗る	49歳
寛政7年	1795	江戸深川黒江町に住み、高橋至時の弟子となる	50歳
寛政12年	1800	第1次測量	55歳
享和元年	1801	第2次測量	56歳
享和2年	1802	第3次測量	57歳
享和3年	1803	第4次測量	58歳
文化元年	1804	日本東半部沿海地図を幕府に提出、將軍家齊の上覧を受ける。以後幕吏に登用される	59歳
文化2年～	1805	第5次測量	60歳
文化5年～	1808	第6次測量	63歳
文化6年～	1809	第7次測量	64歳
文化8年	1811	第8次測量	66歳
文化11年	1814	自宅を八丁堀亀島町へ移す	69歳
文化12年～	1815	第9次測量	70歳
文化13年	1816	第10次測量	71歳
文政元年	1818	死去	73歳
文政4年	1821	大日本沿海輿地全図（大図214枚、中図8枚、小図3枚）及び大日本沿海実測録（14巻）が完成	

伊能忠敬関係年表

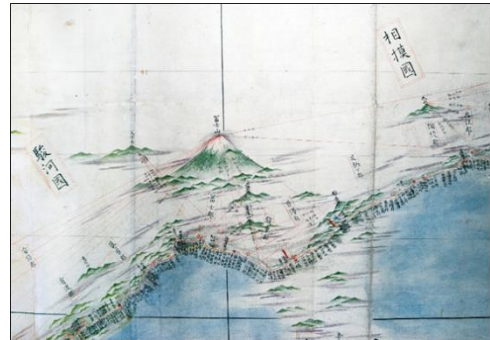
(2) 伊能忠敬について

佐原の酒造りは、伊能三郎右衛門家が、寛文年間(1661~1672)に酒屋名代を買いうけたことが始まりとされるが、これ以外にも、同家は、米穀販売や舟運業も手掛け、また付近一帯の大地主でもあった。また、代々佐原村本宿組の名主を務めるなど、当時の佐原では永沢家とともに、佐原の経済的な発展と村政運営での中核的な役割を担う名家であった。

忠敬は、延享2年(1745)に山辺郡小関村(現九十九里町)で生まれ、17歳で佐原村の伊能家の養子となり、酒造業のほかにも米穀取引など営み商才を発揮する一方、

村役人として村政にも尽くした。50歳で隠居し、江戸に出て高橋至時に師事し、西洋天文学や暦学を学び、その後55歳の寛政12年(1800)から測量を開始し、文化13年(1816)まで10回にわたって全国の測量を行った。文政元年(1818)、73歳で亡くなったが、地図は忠敬の没後、文政4年(1821)に完成し、いわゆる「大日本沿海輿地全図」などが幕府へ上程された。完成した地図は、極めて精度の高いもので、ヨーロッパにおいても高く評価されている。

その業績である「伊能忠敬関係資料」2,345点(一括資料)は、平成22年(2010)6月29日に国宝に指定され、現在伊能忠敬記念館に保管、展示されている。内訳は地図・絵図類787点、文書・記録類569点、書状類398点、典籍類528点、器具類63点となっている。



伊能中図 富士山付近

種類	枚数	縮尺
大図	214	1/36,000
中図	8	1/216,000
小図	3	1/432,000

『大日本沿海輿地全図』内訳



御用旗



杖先方位盤



半円方位盤



象限儀

（3）伊能忠敬に関する建造物

◆伊能忠敬旧宅 <国指定の史跡>

旧宅は、小野川に面した店舗と正門、店舗の奥に続く炊事場と書院、さらに書院の東側に建つ土蔵が指定されている。文政7年（1824）頃に忠敬の孫の忠誨により作成された「伊能家屋敷地実測図」には、土蔵、店舗、正門が描かれている。

（土蔵）桁行 7.272m、梁間 4.545m、切妻造、棧瓦葺、二階建。後補材から文政5年（1822）の墨書が発見されている。店舗、正門も同時期の建築とみられる。

（店舗）桁行 12.727m、梁間 5.454m、切妻造、棧瓦葺、土蔵造。忠敬が婿養子に入る以前に土蔵として建てられ、その後に店舗として改変された。

（正門）四脚門、切妻造、棧瓦葺、店舗が土蔵として建築された同時期の建築で、大きな改変を受けていない。

（書院）桁行 9.999m、梁間 11.817m、寄棟造、棧瓦葺。前述の文政7年（1824）「伊能家屋敷地実測図」に描かれていないため、それ以降の建築であり、明治中期に炊事場が建築された際に改変されている。

（炊事場）桁行 7.302m、梁間 3.636m、切妻造、棧瓦葺。西端は店舗に、東端は書院に接続、明治中期頃の建築である。



土蔵



店舗・正門



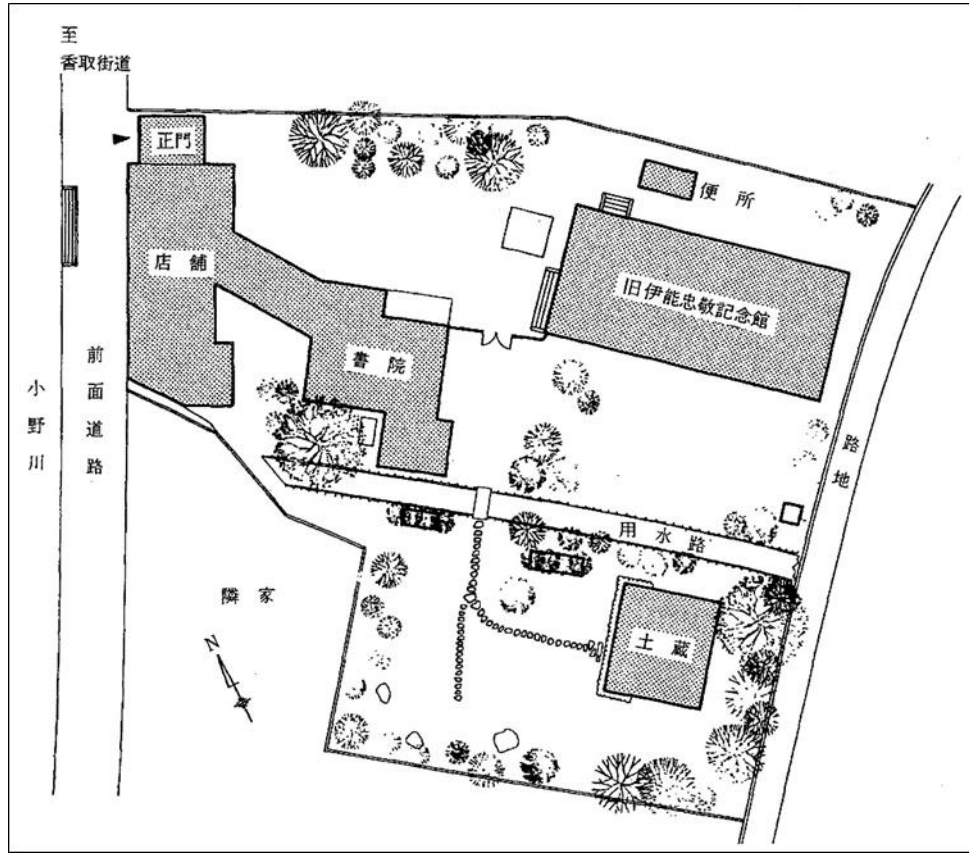
店舗（昭和初期）



書院



書院（昭和初期）



伊能忠敬旧宅配置図

◆伊能忠敬銅像

年代：大正8年（1919）

場所：佐原公園（旧称諏訪公園）

規模・特徴：像高約3.3m（1丈1尺）、台石約5.4m（1丈8尺）。台石の中央には「仰瞻斗象俯畫山川」（仰いで斗象〈星の姿〉をみ、俯して山川を画す）の八文字が刻まれている。忠敬の測量中の姿をあらわした銅像で、製作者は大熊氏廣（1856～1934）である。大正8年（1919）3月2日に除幕式が行われ、銅像が披露された。



伊能忠敬銅像

◆伊能忠敬墓所 <市指定史跡>

年代：文政元年（1818）

場所：観福寺（牧野）

規模・特徴等：尖頂方柱型の墓標、正面に伊能忠敬の戒名である「有効院成裕種徳居士」の刻銘がある。当地の墓には、伊能忠敬の遺髪と爪が納められているとされる。遺骸が葬られた墓は東京都台東区げんくうじの源空寺にあり、忠敬の師匠である高橋至時たかはしよしときの隣りに建てられている。



伊能忠敬墓

◆かんぶくじ観福寺本堂

年代：文化8年（1811）

規模：間口10間、奥行10間

牧野の観福寺は、真言宗豊山派の寺院で、元々、辻坊と称されていた。寛平2年（890）に僧尊海が堂宇を建て、寺号を改めたと言われる。本尊はしょうかんぜおんぼさつ聖観世音菩薩。関東厄除け弘法大師として著名な古刹である。境内には文化8年（1811）建立の本堂のほか、元禄年間建立と伝わる観音堂（間口10間、奥行10間）、大師堂（間口3間、奥行3間）などの堂宇があり、大正7年（1918）建替えの山門が正面に配置されている。墓域には、伊能忠敬のほか、佐原が輩出した文化人の墓も所在している。

重要文化財である銅造の懸仏かけぼとけ4軀は、元々香取神宮が所有していた本地仏で、明治初期の廃仏毀釈で放出されたものを、佐原の有力檀家の手により当寺へ納められた。伊能家のほかにも佐原の旧家の多くが檀家となり、また、伊能忠敬の墓前法要も行われてきたことから、佐原の町や伊能忠敬と深いつながりがある。



観福寺 本堂



観福寺 本堂（昭和初期）



観福寺懸仏

（十一面観音菩薩坐像）

（４）伊能忠敬を敬う風土にみる活動

伊能忠敬は日本で初めて実測によるに日本地図を作製した人物であり、その業績に関する顕彰活動は、明治期以降様々な形で行われ今もなお続いている。それらの顕彰活動は時期や内容などにより大きく次のように分けられる。

①明治期の贈位と佐原での銅像建立【明治16年（1883）～大正8年（1919）】

明治16年（1883）の贈位などによる国家的偉人としての忠敬像の確立と大正8年（1919）の伊能忠敬銅像の建立。

②伊能忠敬没後記念祭【大正6年（1917）～】

大正6年（1917）に伊能忠敬没後100年記念の墓前法要で始まった10年ごとの伊能忠敬没後記念祭

③伊能忠敬（ちゅうけい）さんをめぐる様々な活動【昭和7年（1932）頃～】

佐原小学校「忠敬祭」や伊能忠敬銅像の清掃など地元住民参加による様々な顕彰活動

活動	時期	明治16年 (1883)	大正6年 (1917)	大正8年 (1919)	昭和7年 (1932)	平成30年 (2018)
①贈位と銅像建立		▼	▼▼	▼		▼
②没後記念祭						
③ちゅうけいさんをめぐる活動						

①明治期の贈位と佐原での銅像建立【明治16年（1883）～大正8年（1919）】

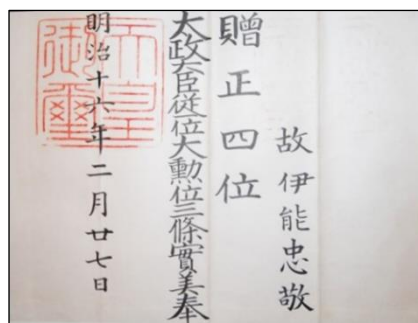
伊能忠敬の名が多くの人々に知られるようになったの明治時代になってからである。その端緒となったのは、明治16年（1883）2月の伊能忠敬への贈位にある。その前年の明治15年（1882）9月に当時の香取郡長であった大須賀庸之助^{おおす かようのすけ}などが、千葉県令船越衛^{ふなこしまる}に「故伊能忠敬へノ贈位ヲ請フノ書」を提出し、同時に元老院議長^{さのつねたみ}の佐野常民にも、贈位に尽力してほしい旨の文書を送っている。佐野常民は明治13年（1880）に下総巡視の際に佐原に滞在し、大須賀郡長や伊能家一族から忠敬の業績などの知見を得ており、また佐賀藩時代に長崎海軍伝習所で忠敬作製の地図の写しを航海に役立たせていたという経緯をもっていた。このため、大須賀庸之助からの文書を受けた後、東京地学協会^{さんじょうさねとみ}で伊能忠敬の講演を行い、贈位と記念碑建立を提案した。明治15年12月には千葉県令から太政大臣^{さんじょうさねとみ}三条実美に贈位の上申が、翌明治16年1月には東京地学協会から上奏

文を提出し、その結果、2月に忠敬に対して、正四位が追贈された。

また、明治22年（1889）には東京地学協会により、東京都港区の芝公園に「贈正四位伊能忠敬先生測地遺功表」（青銅製標、後に石造再建）が建てられている。

その後は、戦前の修身の教科書にも取り上げられるなど、「勤勉」の象徴として伊能忠敬は国家的な偉人として扱われるようになった。

その偉人である伊能忠敬を地元佐原でも顕彰すべく行われた最初の事業が、大正8年（1919）の伊能忠敬銅像の建立である。現在も佐原公園（旧称諏訪公園）に測量姿で立つこの銅像は、大正6年（1917）に忠敬没後100年を記念して観福寺の墓前で盛大な法要が行われた際に、銅像建立の気運が盛り上がり、佐原町の有志（八木善助他9名）が発起人となり、製作されたものである。銅像の製作者は靖国神社（東京都千代田区九段）の大村益次郎銅像を作った大熊氏廣おおくまひろで、大正6年3月に製作を開始し、翌年7月30日に完成した。建立にあたっては600余名の人々、団体が寄付を行っている。除幕式は大正8年3月2日に諏訪公園で行われ、忠敬6代目の孫である伊能とく子により除幕された。その際には、女学校や小学校生徒により、伊能甲之助作歌の「偉人の像」の合唱が披露され、また佐原の山車の曳き廻しも行われた。



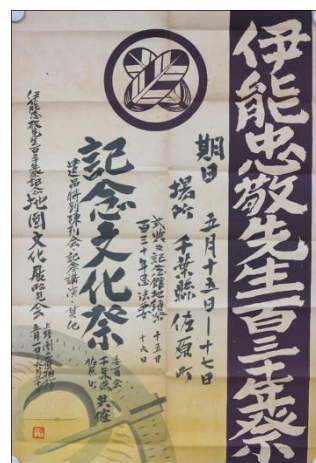
贈位記



伊能忠敬銅像（建立当時）

②伊能忠敬没後記念祭【大正6年（1917）～】

銅像建立の契機となった大正6年（1917）の伊能忠敬没後100年記念法要以後、佐原では別表のように、記念祭などと称する伊能忠敬の顕彰事業が、10年ごとに定期的に行われるようになった。110年記念、120年記念について実施の有無を確認できないが、130年記念以後は、事業規模の大小はあるものの、平成30年（2018）の没後200年記念事業まで顕彰事業が継続して実施されてい



130年祭ポスター

る。なお、各記念祭とも伊能忠敬の年忌法要（墓前祭）が必ず墓所である観福寺で行われている。

中でも特に大規模なものとしては、戦後間もない昭和23年（1948）5月に、当時の佐原町で行われた伊能忠敬没130年祭である。記念事業予定表にあるように、この時は、観福寺での墓前法要や日本地理学会の講演会に加えて、美術展覧会や音楽会、野球大会や相撲の体育大会などの多種多様な行事が開催されるなど町民の多くが参加する事業として行われていた。このほかにも、県立佐原高等学校では伊能忠敬関係資料の展示会が開催され、町なかでは佐原の山車も曳き廻された。また、東京上野国立博物館での展覧会やNHKによる関連番組の放送も行われた。

区分	摘要		
祭典行事	記念式典、記念館地鎮祭（杭打式）、百三十年忌法要（墓前祭）		
文化祭行事（委員会・佐原町・千葉県共催）	講演	百三十年祭記念講演会（講師安部能成先生他）、日本地理学会講演会	
	展覧会	遺品陳列会	忠敬先生遺作遺文展、郷土物故名土遺墨展
		美術展覧会	千葉県観光美術展、水郷美術展
		全国書道展覧会、写真展覧会及び記録写真作成、児童作品展覧会（図書・書道）、千葉県文化団体資料展、生花展覧会、百三十年祭回顧展	
	展示会	千葉県優良商品示会並二即売会、郷土土物見本試作展、産業開発展示会	
	趣味会	俳句産業大会、和歌大会	
	体育会	駅伝競走、野球大会、相撲大会	
	音楽演劇	音楽会（忠敬賛歌発表会）、敬老芸能大会、演劇大会、芸座及び郷土民謡、俗曲コンクール	
	映画	青少年幻燈会	
	余興	花火大会、花自転車街道行進	
その他	①墓参、銅像清掃、遺跡遺品見学		
	②客車、バス、汽船等増結発		
	③記念郵便スタンプ		
	④水郷案内図ノ設置		
	⑤記念アーチ（文化塔）		
	⑥街頭装飾及び奉祝ピラ及各商店福引大売出		
	⑦記念出版「佐原囃子集成」及佐原ばやし歌詞集出版		
	⑧ポスター		
	⑨忠敬先生略伝及パンフレット発行		
	⑩教育用掛図ノ発行		
	⑪百三十年祭記念絵葉書及水郷佐原観光絵葉書発行		
	⑫接待所及休憩所設置		
	⑬各種行事案内掲示板ノ設置		
東京における記念協議	伊能忠敬先生百三十年祭記念「地図文化展覧会」 期日：5月5日より6月30日まで 場所：東京上野国立博物館		
	伊能忠敬先生遺品及其の前後の古版地図出品特別展覧会 期日：5月5日より5月14日まで 場所：東京上野国立博物館		
放送	NHK放送	5月15日～17日ほか	
記録映画	ニュース記録映画ノ撮影		

伊能忠敬130年記念祭行事予定表の内容

140年記念祭や150年記念祭でも、やや規模は縮小するものの、同様に伊能忠敬の顕彰を兼ねて、重要文化財となった伊能忠敬遺品や伊能忠敬旧宅の公開な

ど、市民が参加するイベントとして事業が行われた。170年記念祭になると、佐原青年会議所、佐原の伝統文化を大切にする会及び佐原市の共催による「忠敬と地図のまち さわら」フォーラムが開催され、忠敬や地図に関連付けた町づくりも意識されるようになっていた。

なお、昭和32年（1957）「伊能忠敬遺書並遺品」の重要文化財の指定や、昭和36年（1961）の伊能忠敬記念館（旧記念館）の伊能忠敬旧宅敷地内での開館、平成10年（1998）の新伊能忠敬記念館の開館など、記念祭の動きに合わせるような出来事も見られる。



伊能忠敬 150 年祭
墓前法要（観福寺）



伊能忠敬 150 年
記念はがき・スタンプ

平成30年（2018）は没後200年の節の年でもあり、様々な行事が行われた。伊能忠敬翁顕彰会による墓前法要をはじめとして、有志発起人により伊能忠敬銅像建立が企画され、多額の寄付により作製された新たな伊能忠敬像が、佐原駅前に建立され、5月20日の除幕式により披露された。同時に市主催の「伊能忠敬没後200年記念事業」も開催され、シーボルトの子孫等を招いてのシンポジウムなど各種イベントが行われた。



伊能忠敬銅像除幕式（平成30年）

このように大正6年（1917）の没後100年に端を発した伊能忠敬を顕彰する活動は、様々な形で現在まで継続して行われている。

記念祭	年		月日	行事名	場所	行事の概要
100年	大正6年	1917		伊能忠敬100年記念墓前法要	観福寺	佐原町の区長ら75人発起人となり盛大に実施。大谷亮吉（『伊能忠敬』著者）、長岡半太郎（『伊能忠敬』監修者）、菊池大麓（帝国学士院長）らが参列。
	大正8年	1919	3月2日	伊能忠敬銅像除幕式	諏訪公園（現佐原公園）	佐原町有志（八木善助他9人）発起人、600余名の人々、団体が寄付。製作者大熊氏廣、大正6年3月製作開始、翌年7月30日に完成。忠敬6代目の孫である伊能とく子による除幕、女学校や小学校の生徒による「偉人の像」（伊能甲之助作歌）の披露、山車の町内曳き廻しなど
110年						詳細不明
	昭和5年	1930	4月25日	「伊能忠敬旧宅」国の指定史跡となる		
120年						詳細不明
	昭和14年	1939	5月17日	伊能忠敬先生記念祭	佐原小学校講堂	佐原町主催の神式祭典行事 没後120年記念祭に代わるものか？
130年	昭和23年	1948	5月15日～17日	伊能忠敬先生130年祭	観福寺ほか佐原町各所	忠敬の顕彰のほか、町民の多くが参加する文化祭として行われた。地元で行われた主な行事は、記念式典、130年忌法要、記念館地鎮祭、講演会、資料展示会、市民参加の俳句大会、音楽会、演劇会、野球大会、山車の曳き廻し、花火大会など。また、東京上野博物館での展覧会やNHKによる関連番組の放送なども。
	昭和32年	1957	2月19日	「伊能忠敬遺書並遺品」重要文化財となる		
140年	昭和32年	1957	5月17日ほか	伊能忠敬翁140年祭	観福寺ほか市内各所	忠敬の顕彰のほか、市民参加の各種大会も開催された。主な行事は、140年忌大法要、伊能忠敬遺品（重要文化財）や旧宅の公開、講演会、文化映画「伊能忠敬」の上映、美術展覧会、体育大会、演芸会など。記念タバコ販売、記念スタンプ押印、ラジオ・テレビ放送なども。
	昭和36年	1961	4月	伊能忠敬記念館（旧記念館）の完成		伊能忠敬翁140年祭を記念して収蔵庫の建設が企画された
150年	昭和43年	1968	5月17日ほか	伊能忠敬翁150年祭	観福寺ほか市内各所	忠敬の顕彰のほか、市民参加の各種大会も開催された。主な行事は、150年忌法要、遺品（重要文化財）展、講演会、映画会、美術展覧会、体育大会など。記念スタンプの押印、記念タバコの販売なども。
160年	昭和53年	1978	5月17日	伊能忠敬翁没後160年祭	観福寺	墓前祭を、伊能多嘉（忠敬末えい）、市長、ゆかりの深い人が参列して実施。
170年	昭和63年	1988	5月15日	伊能忠敬没170年祭	観福寺 市内各所	墓前祭のほか「忠敬と地図のまち さわら」記念のフォーラムを、佐原市、佐原の伝統文化を大切にする会、佐原青年会議所の共催で実施。そのほか、経緯度モニュメントの設置、地図展などの各種イベントも開催された。 東京電力の協力による高所作業車を使った忠敬銅像の清掃も行われる。
180年	平成10年	1998	5月17日	伊能忠敬没180年記念	観福寺ほか	墓前祭、伊能忠敬記念館の事前一般公開のほか、江戸東京博物館で「伊能忠敬展」が開催された（4月21日～6月21日）
	平成10年	1998	5月22日	伊能忠敬記念館開館		伊能忠敬没後180年に合わせて記念館を建設
190年	平成20年	2008	5月17日	伊能忠敬墓前祭	観福寺	
	平成22年	2010	6月29日	「伊能忠敬関係資料」国宝となる		重要文化財「伊能忠敬遺書並遺品」から追加指定及び名称変更を経て国宝となる
200年	平成30年	2018	5月20日ほか	伊能忠敬没後200年記念事業	香取市	没後200年の節目となる記念事業が大規模に実施された。主な行事は、記念式典、シンポジウム開催、伊能大図全国パネル公開、伊能忠敬記念館特別展・企画展など。また記念式典に合わせて佐原駅前に伊能忠敬銅像の建立される。伊能忠敬翁銅像建立委員会が主体となり、寄付を募る。

伊能忠敬没後記念祭一覧

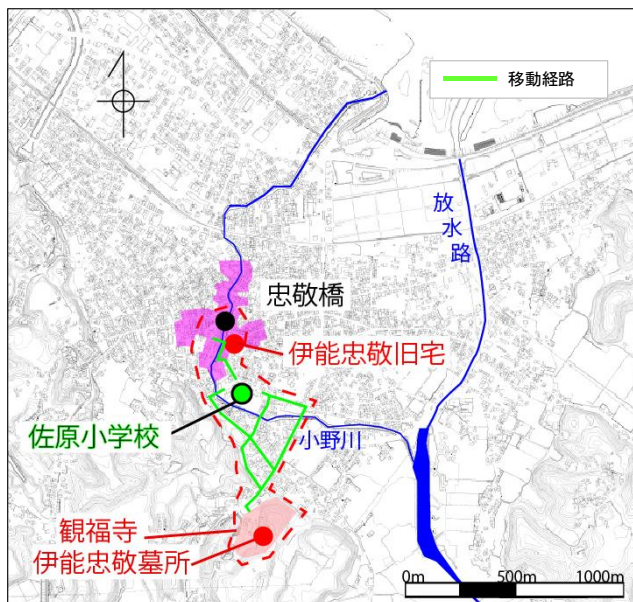
③伊能忠敬（ちゅうけいさん）をめぐる様々な活動【昭和7年（1965）頃～】

佐原の人は尊敬と親しみを込めて、伊能忠敬を「忠敬（ちゅうけい）さん」あるいは「忠敬（ちゅうけい）先生」などと呼ぶ。ちなみに、佐原の市街地の中心部に昭和43年（1968）に架け替えられた忠敬橋、これは「ただたかはし」ではなく「ちゅうけいばし」と呼称している。



象限儀のモニュメントがある忠敬橋

地元の佐原小学校では、少なくとも昭和7年（1932）から毎年6月11日には「忠敬祭」という、伊能忠敬に関する行事が行われてきた。4年生は学校の体育館で伊能忠敬についての講演を聞き、歩測体験などを行い、5、6年生は学校から出て、伊能忠敬記念館、伊能忠敬旧宅の見学をし、また、墓所のある観福寺に歩いて移動して、忠敬の墓参りや観福寺住職の講話を聴くなどして、理解を深めている。



「忠敬祭」での小学校からの移動経路

佐原公園に建つ伊能忠敬銅像周辺の清掃は古写真によると昭和10年（1935）前後には行われていた。その後「忠敬祭」の一環で行われていた時期もあったが、現在は学校行事とは離れて、地元の「伊能忠敬大河ドラマ



高所作業車による銅像の清掃



銅像の清掃（昭和10年前後）

化推進協議会」（平成 23 年〈2011〉設立）の呼びかけで、佐原小学校の児童、保護者によりボランティアで行われている。高所作業車に乗って銅像を磨きあげ、また周辺の清掃活動も行われている。この清掃活動は、忠敬とゆかりのある東京江東区の富岡八幡宮と佐原を結ぶ「忠敬江戸入りフォーデーウォーク」の出発点をきれいにすることもその目的の一つとなっている。

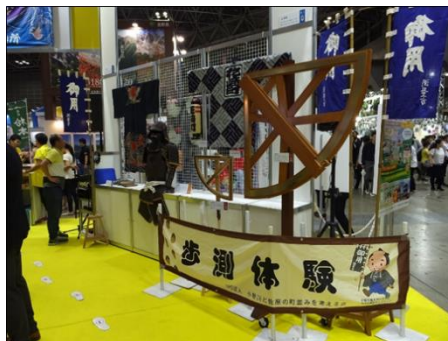
また、佐原の町並み保存に尽力している「NPO 法人小野川と佐原の町並みを考える会」では、町並みの保存活動や魅力の発信に加えて、伊能忠敬の業績についての周知にも努めている。その一環として、象限儀しょうげんぎや御用旗のレプリカなどを用意し、市内外の各種イベント等で、子供たちを対象に伊能忠敬の歩測や地図作り体験をしてもらうなどの活動を続けている。



銅像周辺の清掃



市外のイベントでのPR活動



歩測体験



歩測体験

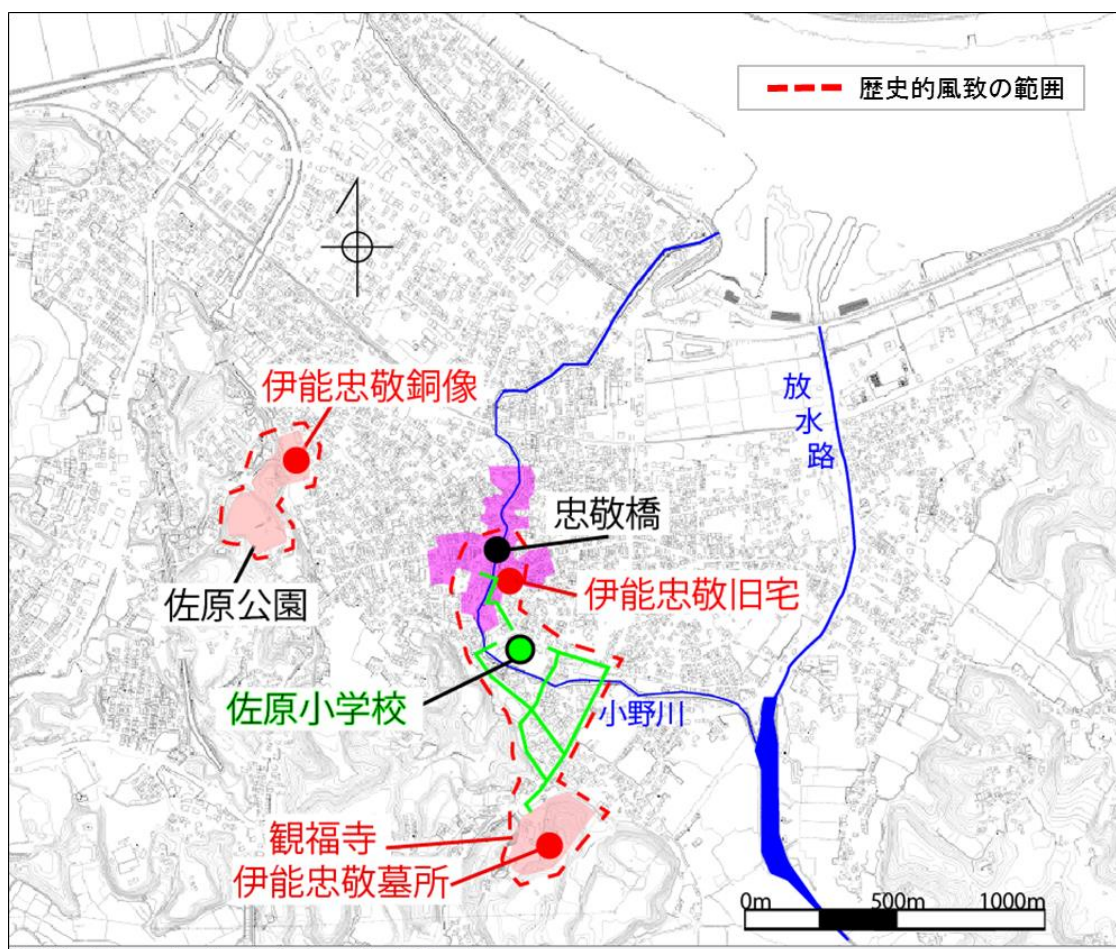
（5）まとめ

日本で初めて実測による日本地図を作製した伊能忠敬は、香取市を代表する人物であり、地元の佐原には地図などの関係資料と伊能忠敬旧宅が残されており、その業績や活動の一端に触れることができる。

明治期以降その顕彰が行われるようになり、大正 8 年（1919）には佐原公園に伊能忠敬銅像が建立されたほか、後没 100 年記念法要以後、記念事業が 10 年ごとに行われ、墓所の観福寺では、毎年伊能忠敬の墓前祭も行われている。

地元の人々は尊敬と親しみをこめて、「ちゅうけいさん」「ちゅうけい先生」などと呼んでいるが、これは様々の顕彰もさることながら、小学校の頃から「忠敬祭」で伊能忠敬に触れ、また日々の生活の中で、忠敬橋を渡り、旧宅や銅像を目にすることで、身近な存在として忠敬をとらえていることに他ならない。

ここ佐原の町には、伊能忠敬旧宅などを中心に、郷土の偉人である伊能忠敬に親しみ、敬う風土が根付いており、良好な歴史的風致が形成されている。



伊能忠敬（ちゅうけいさん）に見る歴史的風致の範囲

